

なな山だより

なな山緑地の会会報 第3号 2006・4

3月26日第二回総会開催される

桜の花も咲き始めた、3月の第4日曜日、竜が峰小学校で、なな山緑地の会の第2回総会が開催されました。出席者は16名、会員の1/2ですが委任状が9名あり、総会は無事成立し議事に入りました。17年度の活動報告、会計報告に続き、平成18年度の活動計画が次のように発表されました。

なな山緑地の会 平成18年度活動計画

これまでの活動を継続する項目

散策の道作り スギ、ヒノキの間伐と枝打ち 下草刈 希少植物の保護 広葉樹の切り払い
くず掃きと堆肥づくり 畑づくりと堆肥の活用 樹木の名札付け 森の水辺づくり

に追加して、今期は次の活動を計画します。

1. 間伐材を利用して、角材、板材をつくり、ベンチ、テーブル、丸太の小屋掛けを計画します。
2. チェンソーの使い方講習、樹木伐採講習を行い、木工にも挑戦します。
3. 畑を拡大し、各種野菜の栽培を試み、収穫時には収穫祭イベントを計画します。
4. 近隣小学校、保育園、近隣一般の方との自然観察会、学習交流会などを通じて、この緑地を活用した地域社会との交流、連携をより広げていきます。

ほかに、「なな山だより」の発行は1月、4月、7月、10月の4回とする。活動日は、毎月第二、第四の日曜日9時から16時までとする。また今後の活動のための助成を受けるべく申請していくこと等が発表されました。

続いて、18年度の予算計画案が提出されました。今期から助成金がなくなり、会費のみの運営となるので、さらに経費の節約に努め、会費を大切に使う方針で異議なく了承されました。18年度の役員は全員留任で異議なく承認されました。

質疑応答、その他のなかでは、市の予算が付いて、7～9月にトイレ、水道、電気が設置される件が報告されました。

緑地の将来像について活発な討論があり、緑地の公開については、一般の方々にオープンするには、里山の大切さを十分理解して頂いた上、さらに一定のルールを作り、守って頂く必要があるとして、この件を改めて話しあうことになりました。



総会の会場風景



なな山緑地全景

なな山緑地は、里山と呼ばれる雑木林を僅かではあるが引き継いでいる場所です。そこは昔、単に「やま」と呼ばれていて、薪や炭の材を切り出し、堆肥作りの落ち葉掃きを行っていました。そのために、下草は常に刈り取られ、樹木は直径10センチ前後で切り払われていました。切り株からは若木が芽を出し、何本かを残し世代交代が何代にもわたって繰り返され続けていました。切られた材は、キノコ栽培のホダギとしても使われ、キノコや野草などの食材も「やま」から供給されました。このような林の循環の中で林床に芽生えた草花には、個性的なものも多く、今では珍しくなった品種も数多く見られます。

樹木の種類は約67種

そんな雑木林を、人手を加え維持管理していこうという活動に、いま私たちが取り組みはじめたところです。なな山緑地は、1ヘクタール程の広さにいろいろな植生が入っていて興味の尽きない場所です。

植生は大きく二つに分けられます。一つは、落葉広葉樹が主であるいわゆる雑木林であり、もう一つはスギ、ヒノキが植林された針葉樹の林です。それぞれ林床の植生も対照的であり面白い対比を見せています。

樹木の種類は多く、判ただけでも67種類を数え、その一本一本の生い立ちに思いを馳せると、どれにもいとさが感じられます。この辺りの雑木林の代表的な樹種は、クヌギ、コナラですが、これらは、薪炭材として、江戸時代中ごろから集中的に育てられました。本来の潜在自然植生(潜在的にこの地に生育する植生)は、シイ、カシ、タブなどの常緑の広葉樹といわれています。人手を入れずに放置しておく雑木林の樹木はこれらの樹種に置き換わっていきます。昔から百年以上続いているいわゆる鎮守の森のシイ、カシの古木からそのことをうかがい知ることができます。

なな山にはこんな木が...

なな山の雑木林は、ここ40年位の間、一部は里山として使われてきましたが、大部分は人手が加えられずに過ぎたようで、落葉広葉樹が大変大きくなり、常緑広葉樹のシラカシ、アラカシ、イヌツゲ、ヒサカキ、クスノキ、タブノキが見られるようになっています。大径木となった落葉広葉樹には、クヌギ、コナラのほかに、ヤマザクラ、ケヤキ、イヌシデ、クマシデ、ハウノキ、エゴノキ、ウラゲエンコウカエデなどがあります。また、その他の特徴のある落葉広葉樹をあげると、高木では アオハダ、サワフタギ、マルバアオダモ、ハリギリ、コブシ、マユミ、ナツハゼ、ネジキ、カキ、ムクノキ、エノキ、ヤマグワ、クリ、ウミズザクラなどがあります。低木では、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コバノガマズミ、マルバウツギ、ツクバネウツギ、ウグイスカグラ、クロモジ、ゴンズイ、リュウブ、イボタノキなどです。

雑木林と生態系

針葉樹の林は、40年以上前に植えられた部分と20年ほど前に植えられた部分があります。樹種はスギ、ヒノキとサワラも混じっています。今植えられている辺りは谷筋でやや湿り気のある所ですからスギに適していて、斜面のやや高いところはヒノキに適しているといえるでしょう。

木陰が多くやや湿り気のあるこの辺りは、下から生える木も草も落葉広葉樹の林とはまったく異なります。樹木は、アオキ、ヤツデ、カクレミノ、ネズミモチ、トウネズミモチ、ヒラギナンテンなどの常緑広葉樹が多くあります。

これらは小鳥が糞を運んだものや糞の中に混じった種から成長したものでしょう。ハリギリやコブシの芽生えも見られます。マンリョウが大変多く、木としては最小ともいえるヤブコウジはジュウリョウと呼ばれここでもよく見られます。そのほか、ツルグミ、ヤマコウバシ、サカキ、ヒラギ、タラノキ、コウヤボウキ、クロマツ、アカマツ、アセビ、ニシキギ、ヌルデなどがあります。これからも、新たに見つかる樹木がまだまだある筈です。

雑木林の樹木たちは、人の手も借り、鳥や昆虫、微生物とも命を育むためのやり取りを繰り返し、春夏秋冬のサイクルで成長と世代交代を行っています。太陽と空気と水と土と多くの生き物とそして人との織りなす自然、私たちはこれを生態系と呼んでいます。細かく複雑な生態系の一部ではありますが、私たちの暮らしと雑木林の関わりは、その生態系の中で大変重要な役割を担っているのです。

シュンラン ラン科 *Cymbidium goeringii*



シュンラン なな山にて撮影

3月初旬、なな山では西側斜面の雑木林にシュンランが咲きはじめた。まだ冷たい空気のなか、白と淡い緑のその姿には気高ささえ感じられた。これを皮切りに山は一気に春めいていく。

ここに春を謳歌する一枚の絵がある。「春」これは教科書などに出てくる有名な絵。1482-83年頃、ポッティチェリがロレンツォ、デ、メディチのまたいとこの結婚祝いに描いたもの。絵はヴィーナスを中心に踊る三美神、女神プリマヴェーラ、フローラ、西風のゼフィロスなどで構成されている。女神たちの頭上にはオレンジの木、足許にはさまざまな野草、女神プリマヴェーラはバラを撒き、そのコスチュームには色とりどりの花が散りばめられている。春の喜びが溢れるシーンである。

この絵の中に描かれている植物を詳細に調べた人がいる。その数約

500点。そのうち花をつけている植物は約190点、花のない植物(シダ、ロゼット状の葉)は約240点、残りはイネ科やカヤツリ科の草。同定された植物はバラ、矢車ギク、アネモネ、マーガレットなど50種弱で、いずれも春のフィレンツェ周辺で見られる野草であるという。メディチ家といえば金融で富を築き、イタリアルネサンスの中心となって多くの芸術家を輩出したが、その昔は薬商。メディチの名は英語のメディスンである。フィレンツェという地名は花(フィオーレ)からきていることから、この地が植物の生育に適した地であったことがうかがわれる。であればメディチ家では薬草を栽培し、商っていたことが容易に想像できる。そんな歴史をもつメディチ家のために描かれたこの絵、何十種類もの植物を描き分ける画家の観察眼は驚きだが、その絵の中の植生調査をする人がいるとは、さらに驚きであり、また愉快的話だ。そろそろ、なな山でも春の植生調査が行われる。去年はキンラン、ギンラン、チゴユリ、ヤマユリなど9種類を中心とした調査であった。新しい野草の発見が期待されている。



「春(プリマヴェーラ)」ポッティチェリ

なな山緑地これまでの活動記録(2)

2005年1月からの記録を掲載します。紙面の都合で次号以降順次掲載の予定です。(記録 戸谷)

2005年	1月 9日	参加16名	山始めの神事、林整理、落葉掃き、散策の道作り、伐採
	1月23日	21名	散策の道作り(西～尾根、東)、落葉集積、伐採、ソダ丸、ホダ木作り
	2月13日	15名	キノコ菌植付け、散策の道作り、片付け、ソダ丸、ホダ木作り
	2月27日	18名	散策の道作り、ソダ丸、ホダ木作り、杭打ち
	3月13日	11名	シタケ菌の植付け、畑開墾、道路柵作り、間伐、名札作り
	3月27日	9名	クヌギ移植、測量グリッド縄張り、下草刈、道整備、
	4月10日	7名	午前中総会、自然観察、グリッド縄張り、下草刈、散策の道作り、畑地耕作
	4月24日	12名	植物目印付、養生囲い、散策の道作り、畑草取り、グリッド縄張りほぼ終了
	5月 8日	15名	植生調査、散策の道作り、下草刈、サツマイモ苗植付け
	5月22日	8名	下草刈、広場東道路草刈
	6月12日	16名	水辺作り、下草刈、散策の道作り、間伐
	6月26日	14名	ホダ木立掛け用柵作り、下草刈、散策の道補修、間伐
	7月10日	10名	ホダ木の立掛け、下草刈、水辺作り、散策の道補修
	7月24日	11名	自然観察、下草刈、散策の道補修、落葉囲い補修
	8月14日	10名	下草刈、物置の整理、道具棚卸、広場南斜面草刈
	8月28日	6名	下草刈、散策の道補修、広場草刈、側溝の泥さらい
	9月11日	10名	自然観察、広場草刈、散策の道補修、下草刈
	9月25日	6名	道補修、植栽、緑地内片付け
	10月23日	13名	ログミルの試運転、ホダ木本伏せ、草刈、間伐、サツマイモの収穫

広げよう会員の和



リレー随筆(3) 入会雑感

長尾満昭

郷里のない東京生まれの私の子供の頃の遊び場は常に池上本門寺の境内であり、またその裏山であった。今にして思うと、四季の樹木の中で、春の芽吹き、夏の緑陰、秋の落葉の舞、冬の梢を通しての光の美しさなどを眺め、常に自然と共に暮らしていた。

自然との共生という言葉通り、人間には自然の木々に囲まれた環境が必要なのだろう。

後年、何度かの引越しの先も、散策場所は、やはり自然のある杉並の妙法寺であり、新座の平林寺であった。また、現在も高幡不動尊の裏山を散歩のコースにしている。

二年前、この里山を市に寄贈された住崎さんの心意気に感謝し、また当会に入会された方々の手弁当によるボランティア精神に共感し隣に居住する者として、僅かな手助けでもお役に立ちたいという思いで入会した。

現在はトイレも水道もない場所ではあるが、緑地の整備作業グループの一員として、外部より参加されている多くの方々と共に活動する楽しみを味わっている。

このなな山緑地がいつまでも美しい里山として維持管理され、一般の方々も緑地の散策や森林浴などで自然に触れ合う機会がもてるようになることを楽しみにしている。

徳富蘆花の詩の一節に「神の月日は此処にも照れば、四季も来たり見舞ひ、風、雨、雪、霰、かわるがわる到りて興浅からず、蝶兒来たりて舞ひ、蝉来たりて鳴き、小鳥来たりて遊び、蟋蟀こあろぎまた吟ず。静かに観すれば宇宙の富は、この林に溢るるを覚えるなり」とある。私も古希を過ぎ、樹木の四季に例えるならば秋過ぎて冬半ばとなった現在、無私の精神で活動されている仲間の方々の足手纏いにならぬ様、体力の続く限り、この活動を続けるつもりでいる。なな山緑地がこれからも、子供たちが自然の中で遊び、学ぶ場所として役立つことを願いつつ、

さて、今回は、なな山のマドンナ(の一人)の戸谷さんにバトンを渡そう。書いてくれるかな！

トピックス TOPICS とびっくす TOPICS トピックス TOPICS とびっくす



山始めの儀式

1月8日恒例の山始めの儀式が行われました。ご神木に、お神酒、塩をお供えして、刈払機やチェーンソーなど道具を並べ拍手を打って今年一年の作業の安全と一同の健康を祈願しました。



畑が広がります

総会の後、皆でこれまでの畑を広げる作業をしました。小石が沢山出て来て仕事は大変ですが、去年のサツマイモに続いて今年は何を植えようか？など話ながら楽しく働きました。

なな山だより 第3号

発行所

発行責任者

住所

編集委員

平成18年4月23日発行

なな山緑地の会

高木直樹

多摩市和田1394 13

鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

新年度がスタートしました。総会において本誌は年4回の発行と決まりました。今まで以上に責任と負担が増えますが、編集委員一同さらに努力して参ります。改めて皆様のご支援をお願いします。